

和歌山 人・もの・地域

和

n a g o m i

Vol.34
2017

特集

紀州、 心の軌跡

(mind Tracking)

知事対談 井沢元彦×仁坂吉伸

Awesome Products in Wakayama [棕櫚たわし]

People × Gourmet (鹿六)

伝統技図鑑 (串柿)

わかやまに恋した人々 (東牟婁郡古座川町)

プレミア和歌山 (トマトジュース)

和歌浦八景の一つ、「玉津春暁」をモチーフにした染付の花生で、手前から観海閣そして海
禅院多宝塔などが描かれている。[南紀男山焼 染付玉津春暁図花生 / 江戸時代後期の作]
(和歌山県立博物館蔵)

日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」

(mind Tracking)

特集

紀州、 心の軌跡

歴史や文化は、留まらない。

流れる川のように、寄せ来る波のように、
明けてまた暮れる陽の軌跡のように、
いつまでも永遠に時を重ねてゆく。

奈良の時代から、天皇をはじめ

多くの歌人に愛され、憧れを集めた

“和歌の聖地”の魅力は、

時間を積み重ね、そこに存在し続ける。

その“時の地層”を探ることで、

紀州に住む人たちの“心の軌跡”が見える。

玉津島神社の背後の奥供山から眺める夕陽。

万葉の時代から和歌の聖地として憧れられた「絶景の宝庫 和歌の浦」が日本遺産に!

2017年4月に日本遺産に認定された「絶景の宝庫 和歌の浦」は、和歌山市の和歌浦から海南市の熊野参詣道までと広範囲に及ぶ。紀州東照宮や玉津島神社はもとより、菅原道真が太宰府に向かう途中、実際に停泊したことが発端と伝わる和歌浦天満宮や、西国三十三所第二番札所紀三井寺、紀州徳川家歴代の廟所がある長保寺や黒江の街並みなどをはじめ、江戸時代の風流芸能を今に伝える和歌祭や和歌の浦の景色を描いた南紀男山焼など歴史的にも文化・芸術的にも優れた計31点が構成文化財として登録された。



江戸時代の絵師桑山玉洲(くわやまぎょくしゅう)が描いた和歌浦十景、「明光浦十覧冊玉津春曉」。後に多くの絵画や美術工芸品に写された。個人蔵(写真提供:和歌山県立博物館)

和歌山県観光振興課
電話/073-441-2424



名草山や船尾山、藤白峠を望む和歌の浦。夜明けを迎え静寂な時が動き出す。今もまるで一幅の絵のようだ。

古の都人も憧れた
万葉の聖地

和歌の浦が「万葉の聖地」として、広く都の人々に知られるようになったのは、聖武天皇の玉津島行幸からであるといえる。奈良の平城京から山部赤人をはじめ多くの従者と共に和歌の浦に到着し、初めて海を見た感動は驚きに近いものだったに違いない。現在の和歌の浦は当時の紀の川河口にあたり、現在よりも内陸まで水を湛えていたという。山部赤人は長歌で天皇家の平安と永遠を言祝ぎ、玉津島の美しさや尊さを讃えた。そして反歌として歌った有名な一首が以下である。

若の浦に潮満ち来れば 湯を無み
牽込をさして 鶴鳴き渡る (万葉集)

玉のように連なる玉津島六山と霞む山並み。潮の満ち引きで見え隠れする片男波や広い干潟は、海のない地に住む都人には、まるで神の所業のようにも見えただろう。時間に追われる現代人の観光ではなく、移ろいゆく時の流れをじっくりと眺める旅は優雅で贅沢である。そして聖武天皇は「弱浜」の名を改めて「明光浦」とし、この素晴らしい景観をいつまでも残すよう詔を発し、春秋の二回、役人を派遣したという。

歌人達は都の人々に和歌を通して、「和歌の浦の素晴らしさを伝える。それは憧れとなり、後世まで多くの歌人が歌枕を巡る為に和歌の浦を訪れ、また和歌を詠み、後に徳川家も和歌の浦を保護する。

和歌の浦の素晴らしさは、絶景だけでなく、歴史や文化がまるで地層のように上に上にと重なって存在することではないだろうか。

地も憧れた



(mind Tracking)

江戸時代前期(寛永末年頃)に描かれ、現在確認されている最古の和歌浦図屏風の一部。玉津島神社を中心に、塩田で働く人や遊興にふける人々など当時の風俗がきめ細かく描かれている。(和歌山県立博物館蔵)

聖武天皇と紀の国

小泉淳作・画「聖武天皇御影」提供：東大寺



即位したその年(724年)に14日も滞在するなど、聖武天皇は大いに和歌の浦が気に入ったようだ。上図の御影は、意匠も含め想像図だが、左肩に八咫鳥が描かれている。八咫鳥といえば熊野三山の象徴であり、神武東征で神武天皇を大和国へ道案内をした導きの神鳥のイメージが想起される所だ。また和歌山県内最古の寺である道成寺は、聖武天皇の父、文武天皇の勅願により建立され、興味ひかれる逸話として、聖武天皇の母である藤原宮子は、道成寺近くに住む村長の娘「髪長姫」であったという物語が伝わっている。

道成寺
住所/日高郡日高川町 鐘巻1738
電話/0738-22-0543

道成寺の宝佛殿では、平安時代初期の千手観音菩薩をはじめ、国宝3点、重要文化財11点などが間近で見ることができる。



東京に和歌浦があるって知ってました?

造園当初から小石川後楽園と共に、江戸の二大庭園に数えられている六義園は、5代将軍徳川綱吉公の側用人で、文学に造詣の深かった柳澤吉保自らが設計・指揮し、元禄8(1695)年和歌浦を模して作られた雅な大名庭園。紀ノ川を

はじめ片男波や妹背山、藤代峠など和歌浦の景勝や和歌に詠まれた名勝が八十八境として再現されている。明治には三菱創設者・岩崎弥太郎の所有となり、その後昭和13年から一般公開され、現在は国の特別名勝に指定されている。

六義園
住所/東京都文京区本駒込6-16-3 電話/03-3941-2222



玉津島六山のひとつ、錦山から徳川治宝公の命により建てられた不老橋〜片男波を眺める。向こう岸の藤白峠まで見ることができる。



※やすみしし わご大君の 常宮と 仕へ奉れる 雑賀野ゆ そがひに見ゆる 沖つ島 清き渚に 風吹けば 白波騒ぎ 潮干れば 玉藻刈りつ 神代より しかそ興き 玉津島山

玉津島神社
和歌三神の一柱である衣通姫尊を祀り、境内には山部赤人や藤原卿の歌碑などが建つ。平成4年に修復が完成した本殿は、漆塗りで春日造りが美しい。「和歌の浦は四季だけでなく、1日の間でもその景色が変わり、見ていて飽きることはありません」と玉津島神社権禰宜の遠北喜美代さん。

住所/和歌山市和歌浦中3-4-26 電話/073-444-0472

和歴紀 歌代州 の藩徳 絶主川 景も家 眺め た



南紀男山焼 染付名草晩潮図大皿

紀州の三大窯のひとつである南紀男山焼。江戸時代後期に藩の殖産興業政策にそって稼働した御用窯で、紀州の名所・和歌浦を描いたものも多く見られる。

和歌山県立博物館
住所 / 和歌山市吹上1丁目4-14 電話 / 073-436-8670



駿河屋菓子司木型 和歌の浦

徳川頼宣公とともに紀州に移り、御用達となった室町時代から続く菓子司。10代藩主治宝公は和歌の浦の名所を表した菓子を作らせた。当時を偲ばせる精緻な図柄の菓子型は和歌山市立博物館に所蔵されている。

和歌山市立博物館
住所 / 和歌山市湊本町3丁目2 電話 / 073-423-0003



和歌浦煎餅

不老橋や観海閣といった和歌浦の景勝地が焼印された煎餅。ほんのり甘く小麦粉の香ばしい香りが懐かしさを感じさせる。戦後から続く和歌浦を代表する煎餅は今もなお多くの人々に親しまれている。

鷹屋製菓
住所 / 和歌山市和歌浦南2-8-1 電話 / 073-448-1617

樹々に覆われた参道を抜け108段の急な階段を登り切ると、朱塗り極彩色に彩られた紀州東照宮の楼門が待ち受ける。振り返ると陽の光を受け、色あざやかに輝く和歌浦湾。そこに一筋の筆跡のようにすっと伸びた片男波が浮かび上がる。紀州藩主たちが憧れた、和歌の浦の絶景である。

なかでも初代紀州藩主徳川頼宣公は、その景色をこよなく愛した。父である徳川家康公に見せるように、権現山に東照宮を建立し、妹背山に三断橋をかけた母をしのぶ多宝塔を建てた。観海閣を設け、時の移ろいとともに表情を変えざる干潟の景色を築きむ場として民衆に開放し、紀三井寺から西国巡礼の旅人を和歌の浦へと誘うようにと渡し舟を出したという。権力者だけでなく一般の人々が自由に集い楽しむことができる名所を作る。頼宣公の領民への想いを知ることができる。

東照宮の権欄耳である西川秀周さんが、拜殿で厳かに祝詞をあげる。美しく磨き上げられた床。漆黒の漆と金箔の輝きが、荘厳なコントラストを放つ。そして天井近くに掲げられているのが、頼宣



三十六歌仙額

和歌神として尊崇された柿本人麻呂や山部赤人、紀貫之など36人の歌人を描いた扁額。玉津島神社の額は和歌山市立博物館に寄託されている。

公が奉納した三十六歌仙額。頼宣公は和歌の聖地を守るかのように、玉津島神社と、和歌浦天満宮にも奉納した。「権現造りの社殿は、戦災で焼失することもなく、創建当初の姿をそのまま残しています。子供の頃に遊んだ身近な境内から見える日本遺産の和歌の浦の景色を、代々の藩主たちも眺めたと思うと感慨深いものがあります」と西川さん。

この「和歌の浦の絶景」は聖武天皇や紀州徳川家、そして多くの人々が愛で守ってきた「日本の宝」である。



妹背山と三断橋

妹背山は平安時代より、船頭山や妙見山、雲蓋山、夔供山、鏡山と共に玉津島六山とよばれた小島のひとつ。現在でも唯一小島として残り、当時の風景を伺い見ることが出来る。青石が敷き詰められた三断橋は県内に残る最古の石橋で、中国の杭州西湖にかかる六橋を模したといわれている。



観海閣から紀三井寺を眺める

玉津島神社の向かい、妹背山に建つ観海閣。頼宣公が紀三井寺を遙拝するために建てた木造の水上楼閣(現在の建造物は昭和36年に再建されたもの)で、背後には母を弔うために建立された多宝塔を配す。ここから眺める水辺の景色や名草山は絶景そのもの。頼宣公が愛した情緒あふれる風景は現在も息づいている。



頼宣公が奉納した三十六歌仙の扁額が飾られている拜殿で、神事を行う権欄耳の西川さん。そこは400年近い昔から変わらない神聖な空間である。

和歌祭で使用される大神輿。創建当初から伝わる古いもので、重さは1t以上で50人ぐらいで担ぐという。



紀州東照宮

徳川頼宣公により1621年に創建され、関西の日光とも称される。家康を東照大権現として祀り、本殿は左基五郎作の彫刻や狩野探幽作の壁画で飾られている。楼門に向かう108段の石段は「待坂」と呼ばれ、和歌祭では神輿を担いで降りる。

住所 / 和歌山市和歌浦西2-1-20 電話 / 073-444-0808





火を点けられる前の大松明。



高さ6メートルにもなる滝の姿を表した十二体の扇神輿(おうぎみこし)。大社本殿前で熊野の御祭神十二神への献酬、祝詞奏上、玉串奉納等、神事が斎行される。大松明は重さ約50キログラムで別宮・飛瀧神社の参道を清めながら扇神輿を迎える。

那智の扇祭り 国指定重要無形民俗文化財

熊野の神々が一年に一度、もともと祀られていた御滝本に里帰りをするという神事で、熊野那智大社の例大祭。通称「那智の火祭」とも呼ばれ、本社神前で大前の儀やユネスコ無形文化遺産の田楽などが奉納された後、滝の姿を表した十二体の扇神輿を十二本の大松明でお迎えし、その炎で清められながら那智大滝前まで向かう荘厳な祭り。

熊野那智大社
住所 / 東牟婁郡那智勝浦町那智山1
電話 / 0735-55-0321



「鈴振り」が持つ鈴。この鈴を振りながら歩く。



丹生(にう)祭 県指定無形民俗文化財

丹生神社で毎年10月に行われる例祭で、もとは4つの神社の別々の祭りであった。和佐地区の笑い祭は特に有名で、道化役の「鈴振り」が鈴を振りながら「笑え、笑え」と練り歩く奇祭である。

丹生神社
住所 / 日高郡日高川町江川1956
電話 / 0738-53-1125

願い事が書かれた松明は一本一本手作り。



御燈祭(おとうまつり) 国指定重要無形民俗文化財

毎年2月6日夜に行われる熊野速玉大社の摂社、神倉神社の例祭で、その歴史は古く、全国で行われる火祭の中でも最も勇壮だともいわれる。ゴトビキ岩前で千数百本の松明に点火され、上り子たちが我先にと、身も凍むような538段の急な石段を駆け降りる。上り子たちは松明に御神火を灯し、大切に家に持ち帰り神様をお迎えした。

熊野速玉大社
住所 / 新宮市新宮1 電話 / 0735-22-2533

餅まき

祭りや上棟式などで集まった人々に餅を投げ配るイベントで、祭りはもちろん、地域の行事でも欠かせない。神社などでは初午や節分で行われることもある。西日本を中心に伝統はあるが、和歌山県は特に盛んだといわれている。



和歌祭

紀州東照宮の大祭、和歌祭の始まりは頼宣公が紀州に入国してまもなくの元和8(1622)年のこと。別名、紀州の国祭、権現祭とも呼ばれる。大神輿を担ぎ108段の急な侍坂を下り、紀州人の心意気を表現した風流芸能の行列とともに練り歩く。江戸初期の東照宮祭礼の姿を残す勇壮な祭りで、毎年5月第2日曜に行われる。

紀州東照宮
住所 / 和歌山市和歌浦西2-1-20
電話 / 073-444-0808

数百年以上受け継がれる祭り。
親から子へ、子から孫へとその想いは語り継がれる。
神聖であり、高揚感を伴う地域の喜びであり、誇りである。
祭りを見て感じるのは、紀州人の心の軌跡である。

受け継がれる地域の絆 (mind Tracking)

祭りで使われる獅子頭。



木ノ本の獅子舞 県指定無形民俗文化財

地上約5mのだんじりの上に組まれた青竹の舞台で笛や太鼓、鉦の音に合わせて演じる有名な舞。獅子が谷底に蹴落とした我が子が、這い上がってくる姿を待ちながら谷底をのぞく様子を描き、500年以上の歴史を誇る。

木本八幡宮
住所 / 和歌山市西庄1 電話 / 073-451-5915



粉河祭 県指定無形民俗文化財

毎年7月最終土曜日に行われる西国三十三所の第三番札所粉河寺の鎮守である粉河産土神社の祭りで、始まりは平安末期といわれる。本祭は甲冑武者や大団扇、獅子舞などの行列が続き、宵祭は各町の意匠を凝らした勇壮なだんじり運行、餅花飾りと提灯に火が灯り輝く。

粉河祭保存会(紀の川市商工観光課)
電話 / 0736-77-0843



FOUND!
IN HISTORY



ベートーヴェンが亡くなったことが掲載されているベルリンの「音楽雑誌」。単に音楽的に貴重なだけでなく、当時の雰囲気も知ることができる。

(南英音楽文庫に関すること)
和歌山県文化学術課
電話 / 073-441-2050

(南英音楽文庫の保管資料に関すること)
和歌山県立図書館
住所 / 和歌山市西高松1-7-38
電話 / 073-436-9500

和歌山県立博物館
住所 / 和歌山市吹上1-4-14
電話 / 073-436-8670

県立図書館地下書架に保存されている資料を一冊ずつ、自筆サインがないか、ダメージがないかなど丁寧に調査する美山名誉教授。



県立図書館の南英音楽文庫閲覧室では貴重な資料の一部を手にとって閲覧できる。



膨大な資料を一冊ずつ紐解く
知的なラビリンスはこれからも続く

資料の研究を行うのは、美山良夫慶應義塾大学名誉教授を代表とする芸術資源研究所。まるで未知なる大海を泳ぐかのように、ドイツ語や英語などで書かれた古く貴重な資料全てを調べていく。「目を通したのは現時点でようやく1割程度ですが、それは大英博物館そのものと形容したくな

るほど貴重なコレクションばかりです」。最終的には音楽の研究者が、誰でも利用できるような形で全世界に発信予定。整理が一通り終了する2019年は紀州徳川家創設400周年にあたり、本格的に公開する予定だという。

膨大な資料を一冊ずつ紐解く 知的なラビリンスはこれからも続く



※南英楽堂図書部入口に掲出された表札

▲ベートーヴェン自筆の楽譜(民謡の編曲)
©慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ総合研究センター

和歌山 人・もの・地域

和号外

(mind Tracking)

南英音楽文庫が公開!

音楽の殿様と称された徳川頼貞は、日本の西洋音楽の父ともいえる存在。頼貞の音楽に対する造詣の深さや教育・文化に対する想いが、音楽資料20331点と共に100年後の和歌山に舞い降りる。

紀州徳川家16代当主頼貞のセンスが光る 世界的に貴重な音楽関連の資料、約2万点

頼貞は英国留学から帰国してまもなくの1918年、日本に西洋音楽を普及させるため、日本初の音楽専用ホール「南英楽堂」を建てた。有名な演奏家などを招きコンサートを開催し、多くの音楽家を後援。併設した図書部(※)で音楽資料を公開し、このコレクションが後に「南英音楽図書」とよばれるようになる。

ところが関東大震災で南英楽堂は被災し、その後文庫は所在を転々とし、戦後しばらく行方がわからなくなったが、1977年以降は公益財団法人読売日本交響楽団に帰属、保管されていた。そのコレクションが和歌山県に寄託され、頼貞の功績と共に公開されることとなった。

「南英音楽文庫」の資料はなんと20331点にも及び、1500年頃に作られたミサで聖書を朗唱する方法を記した書籍をはじめ、ベートーヴェンの自筆楽譜や自筆書簡、ロッシニーの自筆楽譜、ヘンデルの自筆音楽理論書など世界で唯一のものから、バッハやモーツァルト、シューベルトなど世界的に有名な大作曲家の全集楽譜など、音楽関係者でなくても閲覧したくなるものがズバリ。特に貴重な98点の資料は県立博物館で保管展示する。それ以外は県立図書館で保管し、整理と研究を行っていく。南英音楽文庫閲覧室ではその一部を手にとって見ることが出来る。

頼貞のコレクションは、現在の和歌山から、世界にその価値を発信する貴重な宝である。

バッハ オルガン用変奏曲(高き空より)▶
世界に10数点しか残されていない初版(1747年頃)

使徒書簡および福音書の朗唱法(1500年頃)
インキュナブラとよばれる最初期の活版印刷のひとつ▼



日本西洋音楽の発展に尽力した 音楽の殿様、徳川頼貞とは

紀州徳川家15代当主頼倫(よしみち)の長男として1892年に生まれ、英国留学し、ケンブリッジ大学の錚々たる教授陣に直接師事した。紀州藩士の息子で第7代慶應義塾塾長となる小泉信三らが同行。新進建築家ブルメル・トーマスの設計する音楽堂に感銘を受け、日本に本格的な音楽堂を設置することを志した。もともと社交性に富んだ人物であっ



徳川頼貞の音楽的自叙伝「音楽家伝(わいていがくわ)」。表紙にはベートーヴェンの楽譜が印刷されている。現在でも県立図書館で閲覧可能。

南英音楽文庫は多くの貴重な資料を含み、世界的にも屈指の音楽コレクションとして知られていた。1932年には紀州徳川家の財政事情により南英音楽図書は閉館するが、戦前における「西洋音楽のパトロン」として頼貞の果たした役割は大きい。戦後は旧華族として国会議員となり、日本の国際交流に尽力した。

今も聞こえる日本初の音色 紀州藩士が繋いだ風琴のメロディ

頼貞は東京麻布の南英楽堂に、日本で最初のパイプオルガンを設置しようとするが、当時は組み立てやメンテナンスをする技術者が国内にはいなかった。そこで今後のためにと英国人技師の助手に選ばれたのは、日本楽器製造の一人の色を聞くことができる。



山葉寅楠は父が紀州藩で天文係を務めていたこともあり、幼少の頃から機械じりりが得意だったという。日本楽器製造では南英楽堂のパイプオルガンの保守、調律を行うかわら研究を進め、国産最初のパイプオルガンを建造した。

※現在旧東京音楽学校奏楽堂は修理工事中。平成30年秋頃には再びパイプオルガンの音色を聞くことができる。

TOPIC!
IN TOKYO

パイプの数は1379本あり、コンサート用としては日本最古のコンサート用。



旧東京音楽学校奏楽堂
住所 / 台東区上野公園8-43
電話 / 03-5826-7125(仮事務所)

日本遺産に認定された 紀州徳川家の菩提寺

長保寺は長保2(1000)年、一条天皇の勅願によって創建され、奈良の法隆寺と同じく本堂・多宝塔・大門がそろって国宝に指定されている古刹。江戸時代の寛文6(1666)年に頼貞により紀州徳川家の菩提寺に定められ、約1500坪の境内に歴代の廟所が広がる。

長保寺
住所 / 海南市下津町上689 電話 / 073-492-1030





赤坂氷川神社の御社殿は、総欄造り銅葺朱塗で丹青荘重の一冊社流造り。至るところに江戸の年号が刻まれた鳥居・燈籠・狛犬が現存し、東京都重要文化財に指定されている。

歴史の中に見える 和歌山の本当のチカラ

仁坂知事(以下仁坂) ●私は昔から、逆説の日本史の大ファンで、特に独特の方法で歴史の中の真実を見つけていく手法が素晴らしいと思っています。

井沢元彦(以下井沢) ●そもそも私は法学部出身で、歴史の専門教育を受けたわけではなく、また卒業後は8年ほど記者をしていました。にもかかわらず歴史を書いていくかという、ジャーナリストとして現在の真実を追求していく方法と、歴史家として過去の真実を追求していく方法は似通っているからなんです。

また宗教感というか信仰というか、日本人は独特の考え方をもち、ひとつの歴史を作っていく訳ですから、日本人の宗教をわかっていないと日本の歴史なんて分りようがありません。しかし今の日本人に宗教はあるのかという人が多いですが、神道は日本人の考え方に非常に大きな影響を与えています。また日本人が最も嫌う死の「穢れ」や口に出すことで縁

起の悪いことさえ表現してしまうと信じる言霊、そして怨霊信仰なども、日本人の考え方や歴史の中に存在しているように思います。

仁坂 ●さらに史料至上主義はナンセンスだということもよくいわれています。というのも史料自身誰かが作り、自分に都合のいいように書いているかもしれないからです。

井沢 ●日本の歴史学っていうのは過度な実証主義というか、論理的予測を受け付けないですね。物的証拠、すなわち文献がないと駄目だというんですね。裁判なら無実の人を罪に陥れてはいけなから実証主義を徹底すべきですが、昔のことだから史料がないものもある。だからそこは論理的に予測して埋めていかなければならないと思います。その為にも日本人の「考え方」すなわち「宗教」といってもいいかもしれませんが、それらをよく理解しておくことが重要です。湯川秀樹

知事対談

井沢元彦 × 仁坂吉伸

作家

和歌山県知事



小学館発行の『週刊ポスト』誌平成4年(1992年)1月1日号から連載開始され、1993年10月に1冊目の『古代黎明編』封印された「倭」の謎、が発行される。23冊目の『明治揺籃編 琉球処分と廃仏毀釈の謎』が2017年10月に発行されたばかり。シリーズ累計500万部を超えるベストセラー。
※逆説の日本史/井沢元彦/小学館刊

氏が日本人で初めてノーベル物理学賞を取りましたが、あれは中間子、今というクオークの存在を理論的に予言し、それが後に存在が証明されたからなんです。実験を非常に重んじる物理学の分野でも、推論というのが認められているんですが、日本の歴史学者は認めないんです。

仁坂 ●どうしてなのでしょう？

井沢 ●言霊も関係あると思いますね。例えば徳川御三家ですが、これは明らかに徳川宗家が絶えた場合に代わりとなるように作られたに違いありません。しかしそれは文章に残されていません。つまり言霊の世界では書くこと自体が不忠義になるわけですよ。それを望んでいると思われる。しかし実際に紀州藩主であった吉宗は8代将軍になりました。

仁坂 ●吉宗といえば昨年は將軍就任300年でした。本日の対談はその吉宗が建立した社殿が残る赤坂氷川神社で行なっています。

和歌山の南北で異なる 紀州の文化と歴史

仁坂 ●井沢さんにとって印象に残っている和歌山とはなんでしょう？

井沢 ●やっぱり高野山ですね。高野山という関東では奈良にあると思ってる人が多いですが(笑)。あそこは隔絶した霊地といえますか、特別な世界です。

仁坂 ●世界中を探しても高野山のようなところはありませぬ。全山寺院でできていて他宗の開祖の墓や戦国時代の敵味方で戦った大名の墓があるなど、誰もが安らかに眠ることができる寛容の精神に溢れた場所です。

井沢 ●寛容というのも日本を語るための重要なキーワードです。もうひとつは熊野三山です。熊野の成り立ちは随分と古く、平安時代は熊野詣が大流行します。

仁坂 ●自然崇拜が元ですから起源は相当古いですね。また熊野は隈(くま)すみ(すみ)であり、黄泉の国といわれています。

井沢 ●熊野三山の神々は神仏習合で熊野権現となります。如来様や観音様がいらっしゃることは、熊野は黄泉の国であると同時に(黄泉降り)の逸話です。また後白河法皇は34回も熊野御幸を行っています。当時の天皇は戦いを指揮し、さらには飢饉や疫病

仁坂 ●地獄から戻り本宮のつぼ湯に浸かり全快する小栗判官の話。これなんか全く蘇り(黄泉降り)の逸話です。また後白河法皇は34回も熊野御幸を行っています。当時の天皇は戦いを指揮し、さらには飢饉や疫病

動できたことは、この時代の移動手段としてはとても大切なことでした。

仁坂 ●紀州というか紀伊半島に徳川御三家のひとつが置かれたのも海路に関係するように思います。尾張は中山道と東海道の交差点で陸路における交通の要衝。紀伊半島は江戸と大阪を結ぶ海路における交通の要衝でした。この二つの拠点から大阪と西国を睨んでいたんでしょうね。

井沢 ●尾張紀州といえはちよつと縁があります。私は尾張名古屋の生まれですが、名古屋城内に本丸御殿がないのが寂しく思っていました。しかし23年前から始まった「春姫道中」という市民の活動から企業の寄付などが集まり、ようやく復元工事が完了しました。私としては何世代かかってもいいから木造で名古屋城が再建されればいいなあと思っています。「春姫道中」とは名古屋城初代藩主徳川義直(よしのぶ)に紀州和歌山より、13歳で嫁いだ「春姫さま」のお輿入れ行列を再現した時代行列で、私もその行列に参加したことがあります。

仁坂 ●名古屋を見ていると、徳川家の存在が随分残っているなあって思っていたんですが、最近和歌山にも「南琴音楽文庫」という徳川家の宝が戻りました。これは16代当主頼貞(たねさだ)が収集し、公開していた世界的にも貴重な西洋音楽を中心とした楽譜や教材で、日本の音楽教育の発展に尽力しました。これらの実績から頼貞は「音楽の殿様」と呼ばれています。



などでも多くの死と直面しました。それら死の穢れや怨霊をリセットする為に熊野に詣で、生まれ変わりを望んだのでしょう。

井沢 ●ところで和歌山の中でも沿岸部と内陸部では気風が違うんですか？

仁坂 ●沿岸部と内陸部というより、紀北と紀南の違いでしょうか。紀北というのは紀の川を中心とする文化圏で、大和朝廷に近く昔から文化的に栄えていた地域です。紀の川は南海道や大和街道の一部であり、和歌山の港は奈良の都にとって外界と接する海路の窓口でした。また平安時代、和歌山は「和歌の聖地」としても有名になり、聖武天皇をはじめ多くの歌人が奈良から訪れています。

井沢 ●36歌仙のひとりである紀貫之とか彼も紀氏ですよ。

仁坂 ●紀氏は2000年以上続いている

日本近代化の影に 紀州藩あり

仁坂 ●ところで逆説の日本史は今、明治維新を題材にしていますが、明治維新の原型は和歌山にあったんです。

井沢 ●どういう意味ですか？

仁坂 ●実は明治2年から4年、紀州藩の洋式軍隊は2万人を誇り、圧倒的な軍事力を持っていました。藩主茂承(もくしょう)から藩政改革を委任された陸奥宗光(むつみくに)と津田出(ついで)による洋式軍隊制度、四民平等の徴兵制度など、後の近代国家を形づくる諸改革を進め、それがあまりにも成功して脅威と感じた明治政府の採用するところとなったのです。近代国家のイマジネーションがなかったとしか思われない薩長の指導者がどうして維新後にあんな改革ができる



創建から1000年以上の歴史を有する赤坂水川神社。幕府の尊信は篤く、8代将軍 徳川吉宗公が現社殿を建立。たくさんの樹々が生い茂る境内は、安政の大地震・関東大震災・東京大空襲の被災を奇跡的に免れ、江戸の情景がそのまま残る都内では珍しい神社。

知事対談

井沢元彦 × 仁坂吉伸

作家

和歌山県知事

という古い氏で、現在でも和歌山市にある日前神宮・國懸神宮の宮司は「紀さん」です。これほどの古い家系は天皇家を除くとほとんどありません。また紀南は先ほどもいったように熊野三山があり、海路で結ばれた暖かく豊かな地域です。

井沢 ●そういえば房総半島にも白浜や勝浦といった和歌山と同じ地名の地があり、船で賑わう町ですね。日本はアジアの中ではインフラが進んでいたように思われていますが、馬車を使う国でなかった。熊野古道はある程度整備され、石畳がひかれていたところもありましたが、江戸時代は五街道さえ舗装されていませんでした。そのために船での移動が有効でした。国内には多くの川があり、その川は海へと流れ込み、海流に乗り素早く移

ようになつたかは謎ですからね。でも人の良い紀州人はその制度を政府が採用するからというので新政府に入るので、群れませんが周りを薩長に取り囲まれて次々と辞めていくのです。そして歴史が書かれたと私は思います。

井沢 ●紀州の人は群れようと思わないから地元から若手を呼ばなかったんです。和歌山は飛鳥時代あたりから歴史の宝庫だと思っています。その割には文学作品などで扱われる割合が少ない。たとえば空海、たとえば徳川御三家が入る前の浅野家など、面白い題材はいくらもある。そうしたところを何か活かさないかと日ごろから考えています。最近あまり小説を書いていないのですが、今後歴史小説の舞台として和歌山を選ぶかもしれません。

仁坂 ●本日はありがとうございました。



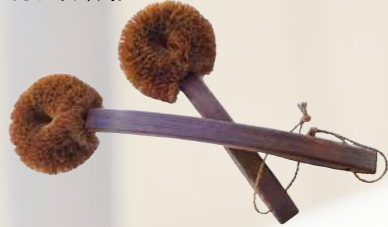
井沢 元彦(いざわ もとひこ)

1954年名古屋生まれ。1977年早稲田大学法学部卒業。TBS入社後、報道局放送記者時代の1980年に第26回江戸川乱歩賞受賞。現在週刊ポストに連載中「逆説の日本史」は1100回を突破。

*a Story of
working site*



最後の成形をする社長の高田英生(ただひでお)氏。



「たわしはゴシゴシ磨くもので、身体を洗うなんて考えられない」と多くの人が思うはず。紀州産棕櫚で作られた「たわし」は、まるで身体に吸い付くような優しい肌触りで野菜はもちろん身体を洗うにも大人気の商品である。紀州の重要な産物であった棕櫚は、安い輸入品の棕櫚やパームヤシなどにとって代われ需要は極端に減少。手入れされた棕櫚山が少なくなり、採取する職人も今では数えるほど。「この仕事に携わる自分たちが、地元の特産品を使わないタワシを作るなんて」と一念発起。熟練の職人が手作業で一本一本巻き上げた「たわし」は、今では生産が追いつかないほどだという。

いい具合の棕櫚の木から職人が皮を剥ぎ、川で洗ってから天日干しされたものが納品される。それを毛さばき機に掛け一本一本の繊維にする。さらに洗い、ゴミを取り、十分乾かしてから針金に挟み捻る。その後は毛先を整えて乾燥させ、製品の形に合うように成形する。繊維が非常に柔らかいので単純が故に熟練の技が必要となる。

高田耕造商店
場所/海南市棕木97-2
電話/073-487-1264



棕櫚しゅろたわし

*Awesome Products
in Wakayama 02*

WAKAYAMA 伝統 技図鑑

vol.1 串柿



道の駅くしがきの里
住所/伊都郡かつらぎ町満53-1
電話/0736-25-0088

平成29年に開通した大阪～和歌山・府県間道路国道480号のトンネル近くにオープンした道の駅。新鮮な地場の野菜や果物から加工品などを販売。季節になると四郷の串柿を購入することができます。

串柿といえばかつらぎ町四郷(しごう)地区の晩秋の風物詩。民家の軒先にはたくさんの串柿が吊り下げられています。この景色は今からおよそ400年前から続いているとか。二個・六個・二個と分けられていて「いつもニコニコ(2個2個)仲むっ(中六つ)まじく、共に白髪(白い粉)の生えるまで」という意味もあります。



串柿は関西のお正月に飾る鏡餅になくてはならない縁起物。柿は「喜び幸せが来る=嘉来(かき)」や、三種の神器の剣(餅=鏡、橙=玉)を表しているともいわれています。



近年串柿の原料として主流の四ツ溝(よつみぞ)柿。渋柿でそのままだ食べられません。果肉にはその名を表す4つの溝があります。



樹高はなんと30mになることも! 梯子をかけて収穫しなければなりません。

昔から広く串柿に使われていた青曾(あおそ)柿。しかし樹高が高く、枝も比較的折れやすいため、収穫作業の安全面から、四ツ溝柿など他品種に変わってきました。しかし今でも四郷で自生しているのを見かけます。



①ヘタを取った柿は皮を剥いていきます。昔はカミソリで一つずつ剥いていましたが、今は機械剥きが主流。なんと1分間に20個も剥けるそう。これは手動剥き機。右手でハンドルを回しながら左手で柿に添わせてレバーを傾けます。今では串柿体験などで使われているとか。

左手でレバーを傾ける

右手でハンドルを回す

②串柿10串をまとめて1連と呼び、1連ずつ柿屋に吊して自然乾燥させます。「空高く秋晴れの日の風景は、昔からあまり変わっていません」と語るのは取材に協力いただいた四郷の会の辻本さんと農家の方々

③ある程度乾燥したら、次は棒押し作業。現在はプレス機に一連ずつ広げて置き、パチャコにしています。何度もプレス機に通すと独特の艶が出てくるそうです。これを3~4日毎日乾燥と交互に繰り返します。串柿は干してただけではなくて、かなりの手間がかかります。明け方近くまで作業をし、夜明けと同時にまた作業を開始するので、靴さえ脱ぐ暇がなかった時代もありました。



紀の川柿

紀の川柿 (きのかわがき)



富有柿 (ふゆうがき)

柿といえば甘いものと思われていますが、実は甘柿は渋柿に比べると、品種も少なく日本特産の品種といわれています。甘柿で一番有名なのは富有柿。丸に近い四角で、果肉は柔らかく甘みと果汁が多いのが特徴です。また紀の川柿は、半分に切ると果肉が真っ黒でびっく!。実はコレ、品種の名前ではなく、渋柿である平核無(ひらたねなし)柿を樹に成ったまま脱渋した希少な柿。完熟した後に収穫するので、甘味が強く、コクのある味わい。黒く見える果肉は甘みがつまった美味しさの証です。



井戸水に数日間、泳がせて身を締めたらうなぎを、背開きにして、蒸さずに焼く。創業以来、継ぎ足してきたたれが絶妙にマッチ。



東京都文京区にあった佐藤春夫の邸宅を1989年、移築。設計は同郷の建築家、西村伊作の弟、大石七分(しちぶん)。和洋折衷のスタイルで、飾り窓やサンルームなどの洒落た造りが目をひく。執筆時に使ったという小さな2畳の書斎には、めがねやライターなどの愛用品も展示されている。

佐藤春夫記念館
住所/新宮市新宮1
電話/0735-21-1755

「蓋をあけると先づ香気が鼻を打ち」
随筆に寄せた地元名代の味わい

「市に名代の鰻屋があつて、朱塗りの浅い容器のなかに、底には一面に山椒の若葉を敷いた上に蒲焼を置いたのが、蓋をあけると先づ香気が鼻を打ち(中略)、見た眼にも美しく食欲をそそった」

その鰻屋が、生家のほど近くにあり、4代目の浦中紀清(うらなほのよきよ)は「祖母に聞いた話では、座敷で一日中横になって、出版社からの電話にも、「おらん、と言つとけ」と、とりあわなかつたそうです」と話します。焼き方やたれ、お気に入りだらうた座敷も当時のまま。アツアツの身を一口頬張れば、「こいつは、うまい」と舌鼓を打つ作家の声が今にも聞こえてきそうです。

「田園の憂鬱」などを発表した。あまりに有名な詩のせい、さんなのイメージが強いが、実は大のうなぎ好きで1956年4月発行の雑誌「あまカラ」(甘辛社)に、「うなぎの話」という随筆を寄せている。



鹿六(しかろく)

住所/新宮市元鍛冶町2丁目3-5
電話/0735-22-2035



自然の中でのびのびと
親子3人のんびり暮らす



「旬の野菜をもらうこともあり、ご近所さんには感謝しています」と千鶴さん。子どもができて、つながりはいっそう強まった。過疎化の進む田舎では、小さな子どもは「地域の宝」と人気者だ。生き物や自然に触れ、その大切さがわかる子どもになってほしいと願う。



すべるように川面をスイスイ
安定感があって初心者でも安心

春(3~5月)は、名所の一枚岩などを巡る5時間半の1日コース、夏(6~9月)は、3時間の半日コースを午前と午後の2回実施。家族連れや子どもも多い。安全対策のヘルメットとライフジャケットを身に着けて、いざ清流へ。

川坊主
住所 / 東牟婁郡古座川町月野瀬881-1ばたん荘内
電話 / 080-2509-4649
<http://www.kawaboze.com>

川下りの合間に箱めがねを使って水中を観察。アユやウグイ、ハゼ類などの魚からカニやエビまで、古座川の清流には生き物がいっぱい。子どもたちが大喜びする体験だ。



わかやまでの日々の暮らしとまちブラ日記



川辺には奇岩、巨岩がいたるところに見られる。火山や浸食が独特の風景を生み出した。



高さ100メートル、幅500メートルの巨大な一枚岩。は古座川のシンボル。



山あいをおだやかに流れる川は、カヌーでの川下りにぴったりだ。ゆったりと自然を満喫できる。



古座川の河口から上流方向を眺める。



切れ込んだ岩の間を流れる「滝の祥」。カヌーで来ることもあるとか。



クリスタル・リバーと呼ばれる古座川の透き通った青い水。

奇岩奇石と美しい古座川の流れ。それだけでワクワクします



「のんびりしたいときによく来ます」という「滝の祥」は、日本ジオパーク認定の南紀熊野ジオパークを構成するジオサイトの1つ。ポットホールと呼ばれる無数の穴がシュール。

受け入れ施策 Come on!

和歌山県では移住者をサポートするため、多彩な支援制度を整備している。40歳未満の若年移住者への奨励金(最大250万円/世帯)のほか、移住後に新たに起業をする人を対象にした移住者起業補助金(最大100万円)、空き家改修補助(最大80万円)なども。移住希望者を対象にした現地体験も定期的に行っている。詳しくは <https://www.wakayamagurashi.jp/how-to/support/>



東牟婁郡古座川町
谷哲也さん
TETSUYA TANI
大阪から移住

美しく澄んだ川を追い求めて
カヌーで自然の魅力伝えたい

シーズン中は午前6時起きで、夕方までガイドをして、それから翌日の準備という多忙な毎日。体験者の満足度は高くリピーターも増えてきた。太平太君を抱く奥様の千鶴さんもガイドを行う。

本州最南端の清流と呼ばれる古座川。緑の山あいを流れる水面を、青いカヌーが滑るように進む。「ダッキー」と呼ばれる空気膨張式のカヌーで、軽やかに漂うように川を下っていく。

「カヌーの仕事がしたい。そんな思いで、各地の川を巡るうちに、たどり着いたのが古座川でした」。ダッキーでの川下り、アウトドア体験をガイドする川坊主の代表、谷哲也さんは話す。哲也さんの半生は、常に川とともにあった。大学の探検部時代、ラフティング(急流下り)に出会い一度は企業に就職したが「川で働きたい」と退社。京都府の保津川でラフティング、高知県の四万十川でカヌーなどのガイドを経験。妻の千鶴さんとも保津川のガイド時代に知り合ったという。

転職が訪れたのは2009年。緊急雇用に応募し、古座観光協会に



集合場所になっている「月の瀬温泉 ばたん荘前」。で長男の太平太君とともに。旅館のすぐ目の前を古座川が流れ、ダッキーが目的地で遠方からやってくる宿泊客も多い。



住まいの裏の田んぼでカエル探し。バッタにも興味津々。

来たとき、クリスタル・リバーと呼ばれる古座川にすっかり魅せられた。「すぐくゆるやかで、水がきれい」。それまでは急流一辺倒だったが、「多くの人に、もつとのんびりと川の魅力に触れてもらいたい」と思うようになった。目を付けたのが、初心者でも比較的操縦が簡単なダッキーで、3年間の準備を経て起業した。「いくつかの候補地があったのですが、美しい自然に恵まれ、夫婦の出身地である大阪に近いことも決め手になりました」。

2015年には長男、太平太君も誕生、3人での生活が始まった。現在、3~9月にガイドをし、シーズンオフは近所の農作業を手伝って生計を立てる。「収支とんとんですが、少人数密着の今のスタイルを守り続けたい」と哲也さん。「古座川がきれいであるかぎり、ここに住み続けたい」と2人は話した。

和歌山の明治維新を訪ねて



議会が行われた議場は奥行き23m、幅18mにも及ぶ大空間。二階の傍聴席と格天井が印象的。明治44年には夏目漱石が講演を行った。今年7月31日に国の重要文化財に指定された。

生きる神は明治維新を見、和歌山県政の礎となった

〓稲むらの火。でも知られ、商人ながら紀州藩勤定奉行を勤めた濱口梧陵。明治維新直後の1871年には、大久保利通の要請で初代駅通頭(当時の郵政大臣)に就任。その後、和歌山県初代県議会議長に就任した和歌山近代化の父といえる存在である。

現在、一般公開されている旧県議会議事堂は、明治31(1898)年に建造され、明治期



の木造和風意匠の県議会議事堂としては、国内で唯一現存する貴重な建築物だ。



現在の和歌山県庁内に建てられている梧陵像。小泉八雲は“Living God”として紹介している。

Data ▶旧和歌山県議会議事堂
住所 / 岩出市根来2347-22
電話 / 0736-61-1160

戦火を逃れ、何度かの取り壊しの危機に直面するが、その都度県民の保存への思いが通じ、奇跡的に残った議事堂。

Topics 2

「紀州金山寺味噌」が地理的表示(GI)保護制度に登録!

「紀州金山寺味噌」が地理的表示(GI: Geographical Indication)保護制度に登録されました。全国では39番目の登録で、「味噌」の登録は全国初になります。

地理的表示(GI)保護制度は、地域で長年育まれた伝統と特性を有し、その品質等の特性が生産地と結びついている農林水産物や食品の名称を、知的財産として保護する

ものです。和歌山県が発祥とされる金山寺味噌は、米味噌や麦味噌等のように調味に使用するものではなく主としてそのまま食するもので、現在では和歌山県・千葉県・静岡県等の限られた地域で生産されています。なかでも、和歌山県内で生産される紀州金山寺味噌は、麴の原料として、大豆、裸麦(大麦)、米の3種類の全てを使用し、具材として瓜、茄子、生姜、紫蘇の全てを用いるという他の地域の金山寺味噌にはない製法を有しています。この製法から、具材の混ぜり具合に応じて様々な食感や食味が得られ、まろやかな味が得られています。



問い合わせ / 和歌山県食品流通課 電話 / 073-441-2820

旬の和歌山情報をお届けします 2017 vol.34

Topics 1

「小田井用水路」世界かんがい施設遺産に登録決定!



紀の川から取水し、紀の川右岸の河岸段丘の水田へかんがい用水を供給する用水路「小田井用水路」の世界かんがい施設遺産への登録が決定しました。世界かんがい施設遺産とは、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するために、歴史的なかんがい施設

を国際かんがい排水委員会(ICID)が認定・登録する制度です。宝永4年(1707年)紀州藩主徳川吉宗公の命を受け、当時藩財政窮迫の打開策として新田開発に伴う用水確保のため、当時の技術者であった大畑才蔵が小田井用水路の開削に着手しました。開削途中にいくつかの河川と交差したため、渡井(水路橋)8カ所、伏越(サイフォン)9箇所が設置されました。延長32.5kmにおよぶ水路が完成したことで、1,000haを超える水田を創り出して地域の農業発展に大きく貢献しました。その後、改修を重ねながら開削以来300年間農業用水を供給し続けています。

問い合わせ / 和歌山県農業農村整備課 電話 / 073-441-2951

取材について



取材をバックアップします!

和歌山県では、メディア関係の皆様へ取材への積極的な協力・現地情報の提供等を行っています。

- お問い合わせ
- 和歌山県広報課
TEL. 073-441-2032 FAX. 073-423-9500
e-mail / nagomi-waka@pref.wakayama.lg.jp
 - わかやま紀州館
東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館B1F
TEL. 03-3216-8000 FAX. 03-3216-8002
e-mail / kishukan@wakayama-kanko.or.jp

- 和歌山県フォトライブラリー(写真貸出)
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/photo/>
- 和歌山県動画提供
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/media/>
- 和-nagomi- バックナンバー
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/nagomi/>

ふるさと和歌山応援寄附
和歌山県の「ふるさと納税」がとってもお得にパワーアップ!
1万円以上の寄附で、和歌山を味わえる「梅干し」や「醤油」など、プレミアム和歌山の商品41品の中から贈呈! 詳しくは、下記サイトをご覧ください。
※郵便局、クレジットカードもご利用可能です。
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

和歌山 人・もの・地域

和
nagomi

2017 vol.34

企画・発行 / 和歌山県
発行日 / 平成29年11月22日
企画編集 / サンケイ広告(株)
制作 / (有)YS'pros
印刷 / 中和印刷紙器(株)

「和-nagomi」は、古紙配合率70%以上の再生紙、大豆油インキを用いて制作しています。

プレミア和歌山

特産ミニトマトの美味しさが凝縮



トマトジュース

生産者 / 社会福祉法人なかよし福祉会 なかよし作業所 みんなの食品ひだまり
住所 / 日高郡みなべ町芝498-10
電話 / 0739-72-5820
和歌山県内の産直市場やJA、道の駅などで購入可能



和歌山県優良県産品(プレミア和歌山)推奨制度
安心・安全を基本に幅広い分野で優れた県産品を「和歌山らしさ」、
「和歌山ならではの」視点で推奨する。

残間里江子審査委員長

和歌山は自然豊かで、おいしいものがたくさんあります。毎回審査が楽しみです。



みんなの食品ひだまり、味さっぱり。その味わいをで製造する。トマトジュースは、フルーツミニトマトの甘さが十分に活かされた人気商品。開発のきっかけは同所が販売するトマトケチャップなどを味見した消費者からの「ジュースにしてみても」という感想から。「もともと美味しいうちのミニトマト。まるでフルーツのように甘く後さ。

味さっぱり。その味わいをで製造する。トマトジュースは、フルーツミニトマトの甘さが十分に活かされた人気商品。開発のきっかけは同所が販売するトマトケチャップなどを味見した消費者からの「ジュースにしてみても」という感想から。「もともと美味しいうちのミニトマト。まるでフルーツのように甘く後さ。

きるだけ残したくて、キューと絞っただけのようなものです」と語るのは開発を担当した畑野幸子さん。トマトの酸味や甘みを最大限に引き出すよう、2種類のミニトマトを用い、加える塩分量も最小限。ほとんど手作業で作っているからこそその美味しさ。



当施設は平成11年に開所した障害者就労支援事業所。トマトジュースの製造は今では本格的な事業となり、働く人の賃金アップや、地域の農産物の良さを広めることに役立っていることが嬉しいと語るのは施設長の溝田安生(みぞのやすひこ)さん(左と畑野さん)。

和歌山のスーパーアイドル、ニタマちゃんとパンダちゃんたちの近況報告 vol.05

nitama & pandas 元気日記!

ほくも和歌山からレポートするよー。

中国語に翻訳されて出版!

中国の人たちにもたま駅長のことをもっと知ってほしいにやー!



名誉永久駅長の「たま」が主人公の児童書「ねこ駅長たま びんぼう電車をすくったねこ」(角川つばさ文庫/和歌山電鐵社長 小嶋光信著作)の中国語翻訳本が出版されました。この出版を記念して9月21日にイベントが行われ、翻訳を手がけた毛丹青教授のほか、ニタマ駅長や小嶋社長が翻訳本をPRしました。



和歌山県PRキャラクター「きいちゃん」

パンダ3頭の誕生日「ハッピーパンダマンズリー」

お母さんパンダ「良浜(らうひん)」、お父さんパンダ「永明(えいめい)」、赤ちゃんパンダ「結浜(ゆいひん)」の3頭が9月に誕生日を迎えるのに合わせて、9月7日(木)～10月9日(月)を「ハッピーパンダマンズリー」として、イベントを開催しました。



お問い合わせは、和歌山電鐵 (TEL.073-478-0110)へ。駅長たまのツイッター @ekichoTAMA 貴志駅には駐車場はありません。伊太祈曽駅のパーク&ライドをご利用頂くと便利です。

8月14日に「たま大明神」の鎮座2周年を記念して、「たま名誉永久駅長 招き猫」が発売されました。

9月6日に良浜が17歳の誕生日を迎え、翌日の7日に飼育スタッフ手作りのケーキをイメージした木の玩具が贈られました。14日には永明が25歳となり、木製のひじ掛け椅子をプレゼント。18日には結浜の1歳の誕生日を特製ケーキでお祝いしました。



1歳の誕生日を迎えた結浜は10月10日に母親の良浜からひとり立ちしました。そのお祝いに、メッセージが書かれた大きな水や、良浜が今の結浜と同じ年齢の頃大好きだったボールがプレゼントされました。

お問い合わせは、アドベンチャーワールドインフォメーション(ナビダイヤル.0570-06-4481)へ。公式ツイッター @aws_official ホームページ <http://aws-s.com/>



ほくも
元気だよ!